

蘭亭繭紙入昭陵 世間遺跡猶龍騰

※この詩は七言古詩の最初の二句です。二十四句あるのではと省略しました。

【読み】

蘭亭の繭紙（けんし） 昭陵（しょうりょう）に入り 世間の遺跡（いせき）猶（なお）龍の騰（おど）るがごとし

【意味】

かつて王羲之が書いた「蘭亭集」の繭紙は、唐の太宗・李世民的昭陵に納められてしまったが、この世に残る遺された筆跡は、今なお、まるで天に舞い上がる龍のように、いきいきと輝きを放っている。

＊繭紙…「繭」のようにきめ細かく、滑らかで、柔らかい紙。「蘭亭集序」の真跡が繭紙に書かれていたという伝説的なイメージから ＊昭陵…中国・唐代の皇帝「太宗（李世民）」の陵墓 ＊起舞…舞いを始めれば。志気を鼓舞すれば・心を高めれば ＊肝胆在…まだ志が胸にあること ＊世間遺跡…書の真跡は失われたが、この世にはなお、書や芸術の遺された痕跡（模写・精神・影響）があるということ ＊孫莘老…孫莘老（孫覲 そん てき）は、北宋の政治家・文人。蘇軾の友人。 ＊墨妙亭…孫莘老が建てた亭（文人たちの雅な場）

【出典】孫莘老 求墨妙亭詩（蘇軾・宋）（孫莘老 墨妙亭を求むるの詩）

孫莘老の求めに応じて、墨妙亭を詠んだ詩